

「愛されて生きる」

ルカ 3 章 22 節

「聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。
「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」」

今日は洗礼式です。私自身は、18 年程前にはじめて教会に行くようになり、その 1 年後に洗礼を受けました。

教会に通うようになって、私が驚いたことは、「愛」が語られているということです。青年会で歌う、ワーシップソングにも神様の愛が歌われていました。賛美をしながら心が熱なり、神様の愛に包まれるような経験をして、感動したことを思い出します。

恋愛話、下ネタ話ということであれば、教会に行く前からも、語り合うことがありました。けれども、教会の中では神様の愛が語られ、実際に愛の奉仕があり、神様の愛に力づけられて、新しい 1 週間の歩みへと導かれていく人々の姿がありました。これまでの私が生きてきた世界と全く違った世界があることに気づかされたのです。

洗礼の準備をする中で、私は自分の罪を中々受け入れることができませんでした。神様の愛を知らずに、罪が当たり前の世界で生きてきたので、自分の罪を罪と認めることができなかつたのです。

しかし、ワーシップソングで歌われている神様の愛や、教会の人たちを励ましている神様の愛が、この私にも与えられている神様の愛だと気づいたときに、これまで神様の愛を知らずに、無視をして、知らん顔をして、自分勝手に、そしてそれが当たり前かのように生きてきた自分の歩みは、なんとひどい歩みをしてきたことかと、自分は確かに罪人だと認めざるを得なくなりました。

神様に愛されて、神様の愛の中を生きていくことこそが、私の幸せなんだと、180 度人生が変わりました。

そして、神様の愛を無視して、自分のことばかり考えていた人生を悔い改め、これからは、神様の愛を求めて生きていきますから、どうか、私のことを愛してください、私のことを愛し続けてくださいと祈り求めるようになりました。

私が友人に誘われて、教会に初めて行ったその日は、青年会のクリスマス会の日でした。彼女のいない寂しいクリスマスに、教会に行けば何かあるかもしれない。可愛い女性がいるかもしれない、本格的なクリスマスケーキが食べられるかもしれない。そんな事しか考えられない罪深い私が、教会で受け取った何かというのは、主なる神様の愛だったのです。

ルカ 3 章 22 節

「聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。
「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」」

これは、イエス様が洗礼を受けられて、祈っているときに起こった出来事です。同じように 17 年前の私自身も、洗礼を受けてから、「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」という声を聞いて、それから神様に愛され続けてここまで生かされてきました。

私たちは皆、神様に愛されて、生かされる存在です。

私たちは誰も、神様の愛でしか満たされることのない心を持っています。

私自身、今思えば、心が知らず知らずのうちにカラカラに渴いていました。そんな私が神様の愛を知り、大事なものを失っていたことに気が付き、神様の愛を求めるようになりました。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」という声を聞いてから、私は神様に愛されているという確信と安心を持って生きることができるようになりました。そして同時に、主なる神様に愛されるだけでなく、神と人を愛する生き方をしたイエス様のように、私も愛され愛する人になりたい。私がそうであったように、神様の愛を知らない人々の、神様の愛を伝える人になりたいと思うようになったのです。

「あなたはわたしの愛する子」、この主なる神様の言葉から、イエス様の新しい歩みがはじまりました。私も、主なる神様の愛を知ってから、全く新しい歩みがはじまりました。主なる神様の愛によって、私たちの新しい人生がはじまります。主なる神様の愛が、私たちのすべてです。

みことばを通して、私の罪と共に神の愛が語られます。迷う私に、私の生きる意味と共に神の愛が語られます。日々の試練と共に永遠の神様の愛が語られます。人類の罪深さと共に、私たちが互いに愛し合うように勧められています。私たちはいつでもどんなときでも、神の愛に生きるようにと導かれています。

私たちは、「あなたはわたしの愛する子」と言われた、神の愛にとどまり続けたいと思います。神様の愛から離れずに、神様の愛のうちに生きたいと思うのです。そして、神様の愛が満ちあふれる教会にとどまり、神様の愛に導かれて、その愛を人々の証しし続け、愛され愛し、そしてまた愛され愛するという、その愛にとどまり続け、その愛を広げていくものでありたいと思うのです。

私たちは愛されることで生きることができます。ですから、主なる神様はイエス様に言われたのです。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

イエス様は、神様に愛されて、地上での生涯を全うすることができました。

私たちも同じです。私たちは愛されることで生きることができます。愛が私たちの生きる力になります。

たとえどんなにお金があったとしても、愛がなければ生きることができません。

あふれるほどの食べ物があったとしても、愛がなければ生きることができません。

立派な家があったとしても、愛がなければ生きることができません。

実際に、イエス様やその弟子たち、パウロなどの信仰者たちは、貧しさを経験し、この世の人々が求めるような豊かさを持つことはありませんでしたが、「あなたはわたしの愛する子」という神の愛によって、与えられた人生を最期まで全うしました。

マザー・テレサは、「この世の不幸は、貧しさや病ではない。だれからも自分は必要とされていないと感じることである」と言いました。

どんなに健康で裕福であっても、自分が誰からも必要とされず、存在を認められず、孤独を感じ、見捨てられた存在であるならば生きることができません。

逆に、たとえ貧しさや病の中にあっても、自分の存在を認められ、必要とされ、愛されるならば生きることができるのです。

「愛されている」、これが私たちの生きる力になります。

「あなたを愛している」、この言葉を聞くことができれば、安心することができます。

私たちは愛されることによって、力づけられ、生きる力を与えられ、与えられている人生を生きようという気持ちになります。

私たちは、車で遠くに出掛けようとするときには、燃料を満タンにしてから出発をします。

私たちは、何か大きなことをしようとするときには、しっかりと体調を整えて、準備をしてから事を始めます。

私たちの人生の新しいスタートには、まず主なる神様の愛で満たされる必要があります。

神の愛に満たされるということがイエス様の働きのスタートであり、原動力となりました。まず神の愛に満たされて、イエス様は十字架と復活に至るまでの歩みを始められました。

私が、教会で教えられていた「神の愛」に驚かされたのは、神の愛の無い世界で生きることが当たり前になっていたからでした。

そして今も、まだ神の愛を知らない人々が多くいて、神の愛ではなく、他の何かで自分たちを満たそうとする、そんな世の中に生かされています。

そして、「あなたを愛している」と言われたイエス様が生きた時代もそうでした。聖書を読みますと、やもめの女性や病人が顧みられることなく、虐げられています。イエス様も、愛の無い時代、愛の無い世界にいられていたのです。

その誕生の時から、人々の無関心、愛の無さが現わされています。沢山の人がベツレヘムに集まっていたにも関わらず、誰一人として身重のマリアを顧みることをしませんでした。「宿屋には彼らのいる場所がなかった」と言われています。人々の無関心の中、家畜小屋で生まれ、飼葉桶に寝かされたイエス様です。人々は神の愛を知りませんでした。

バプテスマのヨハネが悔い改めを宣べ伝えなければならない時代でした。

人々はヨハネに尋ねます。

「私たちはどうすればよいでしょうか」

ヨハネが答えます。

「下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。食べ物を持っている人も同じようにしなさい。」

取税人たちにも、ヨハネは答えます。

「決められた以上には、何も取り立ててはいけません。」

また兵士たちにも、ヨハネは答えます。

「だれからも、金を力づくで奪ったり脅し取ったりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」

イエス様が洗礼を受けるとき、人々は神の愛を知らず、悔い改めなければならなかったのです。

イエス様ご自身もこの世界を見て、「この時代は悪い時代である」と言われました。そしてまた、エルサレムの神殿でさえも、強盗の巣になっていると言われたのです。

そのような愛のない時代に、イエス様は神の愛を宣べ伝えられました。
イエス様のこの世での歩みは、神の愛を受け、神の愛を広げる歩みでした。

ルカの福音書 4 章 16-21 節。

「それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしているとおり安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。

すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その巻物を開いて、こう書いてある箇所
に目を留められた。

「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を
注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれる
ことを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」

イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれ
ていた。

イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この
聖書のことばが実現しました。」

2 千年前、イエス様を通して、聖書の約束が実現した、成就したと言われました。

イエス様ご自身が、愛のない世界に、神の愛をもたらすというのです。

そして、今もまだイエス様の働きが続いています。

イエス様の弟子達を通して、そして私たちを通して、神の愛を受けた人々を通して、こ
の世界に愛がもたらされていく、イエス様が始められた働きが今も続いているのです。

イエス様は、神の愛が満ちるところを「神の国」とおっしゃいました。神の愛を知らない
この世の国々に、神の愛が広がっていき、神の国が建てられていくのです。

そして、イエス様はおっしゃいました。

「神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

私たちが神の愛に満たされるとき、神の国が広がっていきます。そして、神の国の一員
となった私たちには、神の愛を広げ、神の国を建て上げる働きに召されているというこ
とでもあります。イエス様がこの地上でなさろうとしている働きに私たちも一緒に働く
ことです。

神の愛を広げ、神の国を建て上げるために私たちにできることは何でしょうか。イエス
様はどのようにして地上での生涯を全うされたのでしょうか。

イエス様の働きの背後には、父なる神様との関係がありました。父なる神様のご計画に忠実に従うイエス様の姿がありました。イエス様は祈りを通して神様のみこころを求め続け、そして、聖霊の力によって地上での歩みを導かれてゆきました。

神の子である、イエス様でさえも、父なる神様に祈ることを大切にし、そして、聖霊の力によって導かれて、聖書のみことばの実現のために、神の国の完成のために働いたのです。

イエス様がそうであるならば、私たちはなおさら、自分の力で生きることはできません。自分の力だけでは何もすることできないし、何者にもなることができず、ましてや神の国を建て上げる働きにたずさわることにはできません。

イエス様がそうであったように、私たちも同じように父なる神様との関係と聖霊の助けが必要なのです。

私たちの歩みも、神様の愛からはじまります。ただその愛に信頼して生きるのです。ただし、聖霊の助けと、神の愛を受けていたとしても、何も苦勞もなく生きることができるわけではありません。

イエス様ご自身もそうでした。

それは、旧約聖書のイザヤ書 53 章に預言されていたことでした。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。」(4 節)、「しかし、彼を砕いて病を負わせることは主のみこころであった。」(10 節)

愛のない世界の中で、人々が病に苦しみ、貧しさに苦しむ世の中で、イエス様ご自身も病や貧しさを経験し、その中であって神の愛を現わすこと。それが主なる神様のみこころであったのです。

私たちが信仰生活に求めることはなんでしょうか。

日々の生活の中で、何も問題が無い事でしょうか。健康長寿でしょうか。

自分の夢や願い事が叶うことでしょうか。豊かな生活をするのでしょうか。

主のみこころは、私たちが、愛のないこの世の中で、その中で孤独を覚える人々、病で苦しむ人々、愛を求めて渇く人々と共に生きることであり、その中であって神の愛を証しすることです。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

私たちの信仰生活は神の愛から始まり、神の愛を共に分かち合うことであり、神の愛を証しし、神の愛の満ちる神の国を広げるために、生きるということです。

私たちの信仰の土台は神の愛です。

何か良いことがあったらか神を信じるのではなく、病気が治ったからとか、奇跡を体験したから神を信じるのではなく、神様の愛を受けて、神様に生かされることが私たちの信仰です。

そして私たちは信仰生活の中で、ただ神の愛に信頼しているかどうか、試されるのです。私たちが導かれる道がたとえ、厳しくとも、導かれる神様に信頼することができるかどうか試され続けるのです。

それは旧約聖書の時代から続く、神の愛ゆえの試みです。

出エジプト記 20 章 2, 3 節。

「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。」

私たちが愛のない世界から、救い出し、愛をもたらす人生へと導かれたお方を信じ続けることができるかどうか試されるのです。

私たちは、困難の多い人生の中であって、ただ主の愛に信頼し続けなければなりません。

申命記 7 章 9 節。

「あなたは、あなたの神、主だけが神であることをよく知らなければならない。主は信頼すべき神であり、ご自分を愛し、ご自分の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる。」

一度、神様を信じて、洗礼を受けて、それでゴールではありません。

イエス様がそうであったように、そこから新しい人生が始まります。

神様の愛を受けて、それから神様の愛を受け続けて、神様に信頼し続け、神様の愛にとどまり続けなければならない人生が始まります。

私自身、洗礼式を終えて、「終わった」と思っただけでほっとしたときに、ある高齢のご婦人の方が近づいてきて、耳元でささやかれたんです。

「あなた、これから気をつけなさい。これからサタンに狙われるのよ」

思わず「え？」と声を出したら、「若くてこれから教会を担っていくような人をサタンは攻撃してくる」と言われたのです。

心の中で、「いきなり、なに。ちょっと、こわいんですけど」と思いましたが、今になって、良く分かります。これまでの歩みは、神様の愛にとどまり続けることができるかどうか、試されるころが何度もある歩みでした。

この世の中には、神様の愛よりも魅力があるように見えてしまうものがあふれています。

しかし、イエス様がおっしゃるのです。

ヨハネの福音書 15 章 9 節。

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。」

父なる神の愛を受けて、この世での歩みを、最期まで生き抜いたイエス様が、父なる神の愛の中にとどまり続けたイエス様が、同じようにして、わたしがあなたがたを愛している。だから、わたしの愛にとどまり続けなさいとおっしゃってくださるのです。

聖霊の力と、父なる神の愛だけでなく、イエス様が私たちと共にいてくださり、愛してくださっている、そしてその愛の中にとどまり続けなさいと言われるのです。

それだけではありません。

ヨハネの福音書 15 章 12 節。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」

イエス様は私たちに互いに愛し合うように勧めています。

イエス様が愛してくださったように、私たちも互いに愛し合うために生きるのです。

愛されることから始まる新しい人生は、その愛にとどまり、そして互いに愛し合う人生となります。

もちろん簡単なことではありません。愛の無い世界が当たり前であった私たちですから、人を愛して生きることは簡単なことではありません。

しかし、神様に与えられた人生です。

自分で手にしようとした人生ではありません。

神様に導かれる人生です。自分で選び取っていく人生ではありません。

神様に愛を与えられ、神様に生きる目的を与えられ、神様に使命を与えられ、神様に生きる力を与えられ、神様に日々の働きを与えられ、私たちの人生は神様に与えられたものであふれています。

ですから、私たちはただ主なる神様に信頼し、神様の愛に信頼し、神様が与えてくださるもので生きるのです。

私たちは、人生のいつでも、神様の愛を確認したいと思います。いつも神様の愛に立ち返りたいと思います。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」という声を、思い出したいと思います。

そして、今、主なる神様が「わたしはあなたを愛している」と言ってくださっている声を聞きたいと思います。そうして、私たちが互いに愛する者へと変えられていくのです。